

## 生果実（いちご）の東南アジア・北米等への輸出を促進するための輸出相手国の残留農薬基準値に対応したIPM体系の開発ならびに現地実証

【分野】	野菜・花き
【分類】	実証研究型
【研究代表機関】	（研）農研機構野菜花き研究部門（地域戦略（イチゴ輸出）コンソーシアム）
【参画研究機関】	（研）農研機構九州沖縄農業研究センター、宮城県農業・園芸総合研究所、静岡県農林技術研究所、徳島県立農林水産総合技術支援センター、香川県（香川県農業試験場）、福岡県農林業総合試験場、長崎県（長崎県農林技術開発センター）
（普及担当機関）	宮城県農林水産部農業振興課、静岡県経済農業協同組合連合会、徳島県立農林水産総合技術支援センター徳島農業支援センター、香川県農政水産部農業経営課農業革新支援グループ、福岡県北筑前普及指導センター、長崎県県央振興局農林部諫早地域普及課
【研究・実証地区】	宮城県東松島市、静岡県経済農業協同組合連合会管内、徳島県徳島市（多家良地区）、香川県木田郡三木町（「こころ」グループ）、福岡県古賀市（JA粕屋地区）、長崎県諫早市（高来地区）

### I 目指す地域戦略と研究の背景・課題

#### 1. 地域戦略の概要

生果実（いちご）の東南アジア・北米向けの輸出拡大を目指し、生果実（いちご）の高品質化を支える病害虫防除を輸出相手国の残留農薬基準値をクリアする体系とし、防除コスト低減を目指すことでイチゴ生産における競争力強化を図る。

#### 2. 研究の背景・課題

生果実（いちご）の輸出は輸出相手国の植物検疫に加えて国ごとに異なる残留農薬基準値が設定されていることを踏まえ、農薬使用量の節減と残留農薬基準値をクリアする低コスト防除体系を策定する。

### II 研究の目標

地域戦略として、大規模施設園芸にみられる環境制御の高度化と増収が期待されており、これらの施設園芸を中心にして、生果実（いちご）の高品質化と代替防除技術と農薬使用の高度管理によって個別の生産団体において輸出向け生果実の30%増を可能とする生産体系の確立を目指す。また、輸出相手国の残留農薬基準値を意識した生産・防除体系によって、収穫期における化学合成農薬の使用量を50%以上削減することを目標とする。

### III 研究計画の概要

#### 1. 生果実（いちご）の残留農薬基準値の実態把握と防除体系の検討

イチゴ栽培の各時期に生果実（いちご）に残留する農薬値の分析を行い、過去の農薬残留値を含めて長期にわたる減衰モデルを作成する。主要な輸出相手国（東南アジア各国、米国、欧州各国、ロシア、豪州、ニュージーランド等）の残留農薬基準値の把握・解析を行う。

#### 2. 新たな物理的防除法と次亜塩素酸水によるイチゴ病害虫の防除体系

イチゴの表面に寄生する病害虫をほぼ100%死滅させる蒸熱処理等の物理的防除法、殺菌効果が強い一方で残留性が少ない次亜塩素酸水と化学合成農薬等を組み合わせ、農薬使用量を大幅に削減するイチゴ病害虫防除体系を策定する。

#### 3. 生果実（いちご）の輸出相手国の残留農薬基準値に対応したIPM防除体系の確立

地域や年度によって異なる病害虫の防除効果や防除方法を短期間で確立するため、複数の地域戦略で異なる防除技術の導入や同一の技術を複数県（地域）で実施し、各地域における輸出相手国の残留農薬基準値に対応した生果実（いちご）のIPM防除体系を確立する。

#### 4. 防除対策マニュアルの作成

各地域戦略においてイチゴ栽培実態に即した防除対策マニュアルを作成する。

# 生果実（いちご）の東南アジア・北米等への輸出を促進するための輸出相手国の残留農薬基準値に対応したIPM体系の開発ならびに現地実証

輸出相手国残留農薬基準値に対応した防除体系の確立による競争力強化を行う。

## イチゴ生果実の輸出促進に資する輸出先国の残留農薬基準値に対応した病害虫管理体系の実証

農産物輸出促進のための  
新たな防除体系の確立・導入事業  
(生果実（いちご）)

輸出相手国の残留基準値への対応マニュアル  
(詳細版)



平成27年4月  
農林水産省 消費・安全局 植物防疫課  
国立研究開発法人 農産・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所

農林水産省消費・安全局  
植物防疫課  
(協力：農研機構野菜茶業研究所)  
作成 対応マニュアルの利用

- 輸出相手国の情報収集
- 農薬の減衰傾向の把握
- 基準値以上となる農薬使用法
- 使用可能な農薬の情報

**実証**





**定植後の防除体系**  
微生物製剤を含む生物農薬の利用による体系化と農薬使用




**定植後のうどんこ病対策**  
UV-B電球型蛍光灯による  
うどんこ病に対する誘導  
抵抗性を利用



**イチゴ苗処理（定植前）**  
高濃度炭酸ガス処理で  
ハダニ類の防除

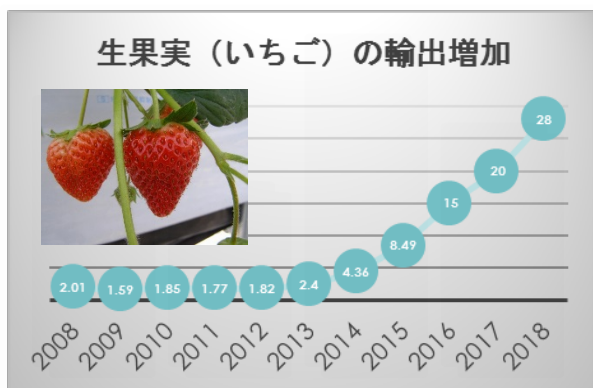
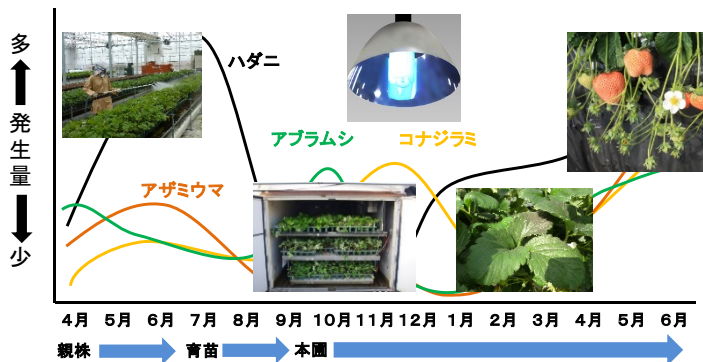


**イチゴ親株**  
飽和水蒸気でハダニ類・  
うどんこ病の防除 または  
残留が問題となる有効  
薬剤の親株・育苗期の使用



**全国の複数個所で  
総合防除体系を実証**





地域における生果実（いちご）の輸出戦略の構築  
高品質果実の安定生産・収量増につなげるIPM防除体系の実証並びに輸出増効果（個別農家で高品質果実の30%増）と化学合成農薬の使用量を半減させる輸出対応型防除体系を策定する。